



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3832 号 2017.8.13 発行

滋賀) 障害者ボートの普及目指し びわろーまつり開催 朝日新聞 2017年8月13日



ローイング
マシンを体
験する来場
者ら=大津
市におの浜
2丁目
障害者
のボート
クラブ
「琵琶湖
ローイン
グクラブ」



グクラブ」(びわろー)が12日、活動紹介イベントを大津市におの浜2丁目の西武大津店で開催した。13日も開かれる。

びわろーは2013年、障害の有無に関わらずボートを楽しむことを目的に設立され、大津市を中心に活動している。身体に障害のある人ら約30人が所属。20年の東京パラリンピックを目指して練習に取り組んでいる。今年5月の朝日レガッタには、新設されたパラローイング部門に参加した。

イベントでは、陸上でボートをこぐ練習ができるローイングマシンの体験会を実施。来場者はメンバーから「ひざを曲げて、腕をしっかり伸ばして」「上半身を使い、足で押し込んで」などとアドバイスを受けながら、マシンを動かしていた。小学2年の落合真衣さん(7)=草津市=は「最初は難しかったけど、だんだんこげるようになって楽しかった」。そばで見守っていた父の真和さん(36)は「競技を知らなかったので、少し興味を持てた。これからは注目して見ていきたいですね」。メンバーの山村友彦さん(22)は「広く知ってもらって、一般の方に応援してもらえよう、練習やPR活動を頑張っていきたい」と話した。(仲大道)



医療・介護用給食 森永食研がうきは進出 市と立地協定

西日本新聞 2017年8月11日

福岡県うきは市は8日、同市浮羽町三春の三春工業団地に進出する大分市の食品製造加工販売業「森永食研」(森永隆美社長)と立地協定を結んだ。同工業団地への進出は2社目で、操業開始は来年4月の予定。

同社は2002年に設立し、医療、介護用給食の提供が主業務。大分市内に2工場を持ち、大分、福岡、熊本県全域と宮崎県の一部を商圏としているが、九州全域をカバーする

生産拠点として、うきは市への進出に踏み切った。

約1万7500平方メートルの敷地に1期工事として延べ床面積約1650平方メートルの工場を建設。投資予定額は約7億円。操業当初の新規雇用は地元を中心に約30人を計画している。

市役所であった調印式で、森永社長は「現在の給食とは別に、在宅介護用サービスにも広げたい」と抱負。高木典雄市長は「うきは市の農産物を食材に使ってほしい」と期待を込めた。

栃木県内初、1000万円を突破 宇都宮市、16年度障害者優先調達

下野新聞 2017年8月13日

【宇都宮】障害者の自立促進を目的に、市が就労支援施設などから積極的に発注・購入を行う「優先調達」が、2016年度は1053万5084円に上り、県内市町で初めて1千万円台を突破したことが、12日までの市障がい福祉課のまとめで分かった。昨年4月の障害者差別解消法施行に伴い、庁内各課の理解と協力が一層進んだことも要因とみられる。

市は08年度から障害者就労施設から商品やサービスの調達を開始。障害者優先調達推進法が13年に施行後は調達方針を毎年策定し、優先調達を進めている。調達額は08年度の153万円から順調に伸び、15年度は797万円だった。

16年度は廃食用油や使用済み小型家電資源化の回収業務（224万円）、保育園の給食用パン（178万円）、点字版広報うつのみや作成業務（167万円）などを市内34カ所の事業所に発注。市制120周年と市町合併10周年の記念品制作（計28万円）も調達額を押し上げた。

また事業所の総売上額は2億3226万円、工賃支払い月額は1万6293円で、共に過去最高となった。同法施行前の12年度と比べ総売上額は1.47倍、工賃月額は1.3倍に伸びている。

介護福祉士養成の大学・専門学校 入学者これまでで最少に

NHK ニュース 2017年8月13日

介護福祉士を養成する全国の大学や専門学校の今年度の入学者は、外国人留学生が前の年度の2倍に増えた一方、日本人の入学者は大幅に減り、全体では、これまでで最も少なかったことが大学や専門学校で作る団体の調査でわかりました。日本人の若い世代で、介護の仕事に敬遠する傾向が一段と強まっている実情が浮き彫りになっています。

介護福祉士を養成する大学や専門学校で作る「日本介護福祉士養成施設協会」が、全国の372校を対象に行った調査によりますと、今年度の外国人留学生の入学者は合わせて591人に上り、前の年度の2倍に増えました。これは、去年の法改正で、日本で介護福祉士の資格を取得した外国人が、国内の介護現場で働けるようになったことを受けたものと見られています。

一方、日本人の入学者は6667人で、前の年度から11%以上大幅に減り、日本人と外国人を合わせた全体の入学者は7258人と定員の45.7%にとどまり、これまでで最も少なくなりました。介護現場で深刻な人手不足が続くなか、日本人の若い世代で、介護の仕事に敬遠する傾向が一段と強まっている実情が浮き彫りになっています。

日本介護福祉士養成施設協会の澤田豊会長は「介護分野の人材確保には日本人の担い手も増やす必要があり、現場で働く人たちの処遇の改善が不可欠だ」と話しています。

乳幼児と帰省 実家に潜む危険とは？

NHK ニュース 2017年8月12日

夏休みで赤ちゃんや子どもを連れて実家に帰省している人も多いと思いますが、祖父母の家などふだんと違う環境では、子どもの事故にも一層気をつけなければなりません。おばあちゃんの薬に手を伸ばしたり、風呂場をのぞき込んだり…ひやっとさせられたことはありませんか。

乳幼児連れの帰省。どんな点に注意が必要なのか。子どもの事故に詳しい小児科医の山中龍宏先生に聞きました。

おじいちゃん、おばあちゃんにもぜひ読んでもらってください。

(ネットワーク報道部・野町かずみ記者)

風呂場で溺死 残り湯は捨てて！

「すべての事故を防ぐことはできません。でも発生頻度が高く、重症度が高くなるものは防ぎましょう」という山中先生。

山中先生が帰省先で心配な事故の1つが、風呂場での溺死だと言います。危険度が高いのは、歩き始めた生後10か月から1歳くらいの子どもの、毎年のように事故は起きています。実家での注意点、ポイントは浴槽の



高さと残り湯です。

「実家では高齢者が浴槽をまたぎやすいように、浴槽の高さが低い場合も多いと思います。1歳の子の身長が約75センチくらいなので、50センチ以下ですと簡単に乗り越えられて危険です。

そして、鼻と口を覆うほどの残り湯があれば、赤ちゃんはおぼれてしまいます。大人が話に夢中になっている間に赤ちゃんが1人で風呂場に入

ってしまうと、重大な事故につながりかねません」(山中先生)

対策としては、子どもが滞在する間だけでも、残り湯は絶対に捨ててもらおうこと。さらに、鍵をかけるなど子どもが1人で風呂場に入れないように工夫することが必要だと指摘します。



帰省先でもチャイルドシートは必須。帰省先で祖父母の車に乗せてもらう場合、最も大事と山中先生が考えているのは、チャイルドシート(またはジュニアシート)。

警察庁とJAF＝日本自動車連盟がことし全国で行った調査ではチャイルドシートの着用率は64%にとどまっています。

着用しない場合の死亡率は高く、去年

1年間に乗車中の事故で6歳未満の子ども9人が死亡し、このうち8人がチャイルドシートを着用していませんでした。

「おじいちゃんが迎えに来て、私は運転がうまいから大丈夫と言って本当に信用できますか？小児科医から見て、一番、重症度や死亡率が高いのはチャイルドシートの未着用によ

る**交通事故**です。子どもが泣いていやがるから、ちょっとした外出だという気持ちもあると思いますが、事故が起きたら一生後悔します。祖父母の方にも、孫を車に乗せることがあるなら、チャイルドシートは基本中の基本と知ってもらいたい」（山中先生）
チャイルドシートはレンタルもありますので、ぜひ帰省先でも準備してもらいましょう。



ボタン電池・薬の誤飲に注意

そして、ふだん小さな子どものいない実家での生活にも注意が必要です。子どもの年齢が低いほど、さまざまな物を口に入れることが考えられますが、山中先生が一番危険と指摘するのはリモコンなどに使われる「**ボタン電池**」。
特にコイン型のリチウム電池は短時間で化学反応が起こり、死に至るおそれがあるといえます。

「昔のように小さいボタン電池であれば胃に入って3日以内に8割は排出されますが、大きいリチウム電池は、食道に引っかかります。そこで、すぐに電気が流れて、食道がただれて、半日くらいたつと穴が開きます。死亡した例もあり、大変危険です。」

ボタン電池を誤飲する事故はたびたび起きています。

小児科学会に報告された事故のケースでは、1歳7か月の男の子が空気清浄機のリモコンについていたリチウム電池を誤飲し内視鏡で摘出。

さらに1歳2か月の男の子が居間の引き出しに入っていたコイン型のリチウム電池を誤飲し、全身麻酔で緊急摘出の手術。電池により、食道粘膜が腐食・え死していた例もあります。

また高齢者が暮らしていると、さまざまな身の回りに薬を置いてあるケースも多いかと思えます。

薬の誤飲も重大な事故につながりますので、薬の置き場所も注意しましょう。子どもは、手の届く引き出しは開けて取り出すので、手の届かない高いところに置くなど徹底しましょう。

実家の犬にかまれ死亡事故も

そして、思わぬ所に危険が潜んでいると言え、実家で犬を飼っている場合、重大な事故につながりかねないと言います。

ことし3月には東京で祖父母の家に預けられていた生後10か月の女の子がはいはいしていたところ、飼い犬のゴールデンレトリバーに頭から首のあたりをかまれて死亡しました。ふだんはとてもおとなしい犬だったと言います。

また平成20年1月にも、母親の実家の居間で、生後4か月の男の子が昼寝中、おむつの上から、飼い犬のミニチュアダックスフンドに外陰部を噛まれて出血多量となり、こうがンを摘出するほどの大きな事故が起きています。

「うちの犬はおとなしくて、かんだりほえたりしないといっても、子どもを前に猟犬の本能が出ることもあるので、決して信用しないでください。赤ちゃんに後ろから触られて、犬には嫌なこともあるかもしれないし、犬がおむつのおいにおいに反応してかむことも考えられます」（山中先生）

赤ちゃんは、ベビーベッドに寝かせるなど犬にかまれぬよう対策をとることや、犬に口



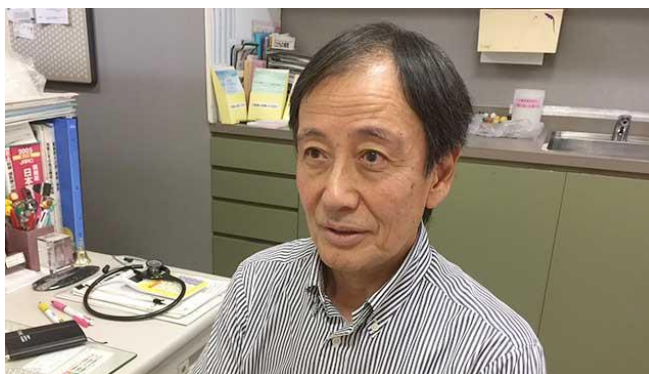
輪をするのも有効です。

実家の環境に注意を

子どもの事故に詳しい小児科医の山中龍宏先生

帰省するといつものは気が張っている親たちも緊張の糸がほどけ、親や親戚とのおしゃべりに夢中になって、大人は子どもから目を離しがちです。

山中先生は、「実家に乳幼児を連れて行くということは、予想しないような環境に入ると言うことです。子どもに何か起きたら、取り返しがつきません。帰省先でずっと目を離さずに見守ることは不可能なので、子どもの遊び場所を決めるなど事故が起きないように環境を整えてほしい」と呼びかけています。



支え合い50年 視覚障害者集う「静岡光の家」 華野優気



朝日新聞 2017年8月13日
「肩たたき棒」を作る利用者ら＝静岡市駿河区
静岡市駿河区の視覚障害者支援施設「静岡光の家」が6月、創立から半世紀を迎えた。みえる人も、みえない人も自分らしく生きられる世の中に――。創立者で全盲の多々良友彦さん（86）の願いが、地域をも動かしてきた。

住宅街の一角にある光の家を訪ねた。壁に並んだ本を手にとると、点字がびっしり。ボランティアが点訳したものだという。床にも点字ブロック。階段の近く

には、踏むと音が鳴る鉄の器具が設置されている。

光の家は、視覚障害者の交流や生活支援のため、多々良さんが自宅の一室を開放したのが始まりだ。この日は、施設の利用者7人がイベント会場などで販売する「肩たたき棒」をつくっていた。新聞の折り込みチラシを細く丸めて束にしていく。「指先が目になる」ともいう視覚障害者にとってこの作業が訓練にもなる。世間話にも花が咲き、なごやかな雰囲気だ。

厚労省幹部、刺され死亡 死因は出血性ショック死 警視庁

朝日新聞 2017年8月13日

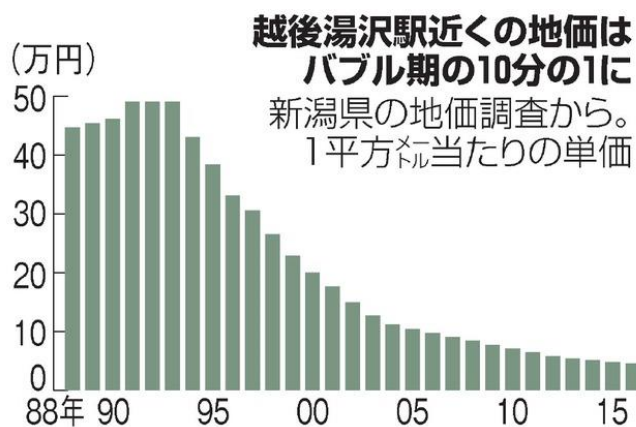
東京都港区のマンションで厚生労働省関東信越厚生局長の北島智子さん（56）が刺殺された事件で、警視庁は12日、北島さんの死因は腹部を刺されたことによる出血性ショック死だったと明らかにした。

高輪署によると、殺人未遂容疑で現行犯逮捕された北島さんの弟（52）は12日午前5時15分ごろ、港区高輪2丁目の自宅マンションの居間で、北島さんの腹部を包丁（刃渡り約13センチ）で何度か刺して殺害しようとした疑いがある。容疑を認めているという。署は、容疑を殺人に切り替え、弟の刑事責任能力の有無を慎重に調べている。

近くに住む北島さんは11日午後10時ごろ、弟と同居する母親の介助のためにこの家

を訪問していた。北島さんは新潟県副知事や同省精神・障害保健課長、生活衛生・食品安全部長などを歴任。今年7月11日付で関東信越厚生局長に就いた。

バブル去り… マンション住民の高齢化に悩むリゾート地 朝日新聞 2017年8月13日
バブル期に乱立したリゾートマンションは、全国に約8万室あるとされるが、新潟県湯沢町には世帯数の約4倍の約1万5千室が集中している。1985年に上越新幹線が上野



駅に乗り入れ、関越自動車道も全線開通し、スキーブームに火がついたためだ。

しかし、所有者の高齢化やスキー人口の減少で、県の地価調査によると、JR越後湯沢駅近くの地価は、ピークだったバブル期の10分の1以下に落ち込んでいる。

リゾートマンションでは管理費の滞納が慢性化しており、裁判所で物件を処分する「競売」が急増している。裁判所の評価は多くの場合「1万円」だが、マンションの場合、

次に買った人に、以前の所有者の滞納分の支払い義務が生じるため、買い手が現れることは珍しい。このため、管理組合自身が落札して負債を消し、そのうえで賃貸に回したり、格安で売却したりすることが多い。

こうした部屋には、町の内外から定住目的で移り住む人が多く、同町によると、町に住民票がある約8100人のうち千人以上がリゾートマンションに住んでいる。住民の高齢化率は16年9月時点で43%と、町全体より8ポイント高く、孤独死や相続放棄が問題になっている。(松浦新)

街区表示板の点検や補修 横浜市、障害者施設に委託 中日新聞 2017年8月13日
補修前(左)と補修後の街区表示板=横浜市中区で



横浜市は本年度、電柱などに取り付けている街区表示板の点検・補修業務を市内十九カ所の障害者施設に委託する。これまで表示板の点検はしておらず、破損や「読みにくい」などの住民からの通報を基に補修してきた。市は表示板の計画的な補修を実現し、障害者施設にとっては工賃を得て、街に出て地域と関わるきっかけになるという。

市によると街区表示板は市内に六万九千枚あり、二十年で文字が読めなくなるほど劣化する。仕事を任された施設利用者は、文字が読めなくなった表示板を見つけた際、ペン型の白いペンキで文字部分を塗って読みやすくする。工賃は点検は一枚当たり百円、補修は同五百円とする。

二〇一五、一六年度に試験的に、計二施設に四町三百四十四枚の点検と補修を委託したところ、好評だったため市内全域に対象を広げた。一八年度は三十六施設、一九年度は五十施設に委託先を増やす。二十年かけて、市内全域を点検できるように

したいという。

市民の通報に基づいて、市職員が点検、補修する従来の方法も継続する。(志村彰太)

矢板市、高齢者の徘徊に備え来月から事前登録制

産経新聞 2017年8月13日

矢板市は徘徊（はいかい）する恐れのある高齢者の事前登録制度を新設し、9月から受け付けを始める。申請を受けた情報は警察や地域包括支援センターと共有。行方不明になった際、早期発見・保護ができるように備え、本人や家族の安心感につなげる狙いがある。県内での初導入の制度だ。

同制度は、家族らが事前に高齢者の氏名、住所、身体的特徴、緊急連絡先、写真など同市に申請し、登録。市から警察や包括支援センターに情報提供。登録は同市高齢対策課で受け付け、申請者の印鑑と対象者の写真（顔と全身）が必要となる。

認知症の高齢者が行方不明になり、事故や事件に巻き込まれるケースが全国的に増加傾向にある中、同市は「制度の導入で高齢者の安全確保につなげたい」とし、今後、市の広報やホームページ、福祉関係者らを通して周知していく。

また、制度導入を控え、市役所で21日、同市と矢板署、同市地域包括支援センター2施設が協定書を締結する。

採用試験をバリアフリーへ、点字や手話などで受験 京都・向日

京都新聞 2017年8月13日

以前の向日市の採用試験実施要項には、身体障害者の受験について、自力での通勤や活字文による出題への対応などが要件として記されている

雇用のあらゆる場面で障害者差別を禁じた障害者雇用促進法の改正を受け、向日市が10月22日から始める身体障害者対象の職員採用試験で、点字の問題文や手話通訳などを介した面接を導入する。活字文のみの出題や口頭での面接に対応できる、

などとした従来の要件を「門戸を狭める」として撤廃した。

市では同日に1次試験、11月中旬に個別面接の2次試験を行い、事務職若干名を来年4月1日採用する。

今月17日までの受付期間中、点字での受験や、面接の際に筆談や手話通訳の配置を申請できる。拡大鏡や点字用具などの持ち込みも認める。

市は2012年度から採用試験を5回実施。いずれも、点字を除いた活字印刷文での出題と口頭による面接の他、自力での通勤や介助者なしの勤務が可能であることを受験資格としていた。

今後、雇用枠の拡大が見込まれる中、4年ぶりとなる本年度の試験を機に、これらの条件を撤廃する。16年4月の同法改正で、事業主は採用時や採用後に「合理的配慮」を提供することが義務となった。市人事課は「合理的配慮のあり方について試行錯誤し、働きやすい環境づくりなど受け入れ体制を整える必要がある」とする。

長岡京市では、障害者団体の要望を受け、既に昨年度の採用試験から同様の受験資格を撤廃。点字試験を導入済みで、本年度も実施する。筆談や手話通訳による面接には以前から対応していた。

大山崎町は昨年度、自力通勤や介助者なし勤務の条件をなくした。点字試験は導入していない。本年度も同様の実施を検討中という。

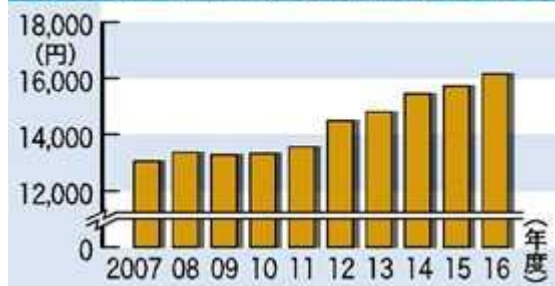


障害者工賃 2・7%上昇 月1万6157円、目標は下回る 栃木県内 16年度

下野新聞 2017年8月13日

県内の障害者就労支援事業所で働く障害者の2016年度の月平均工賃は1万6157円で、前年度比430円(2・7%)上昇したことが12日までに、県障害福祉課のまとめで分かった。自治体の優先調達が増加や事業所の新商品開発などが増加の要因とみられるが、県が目標としていた1万8千円には届かなかった。

県内の障害者就労支援事業所の月平均工賃



対象は利用者と雇用契約を結ばない「就労継続支援B型事業所」155カ所のうち、工賃支払い実績のあった153カ所。最も高かった事業所はパンの製造販売を主力とする野木町の「セルフ花」で、月平均工賃は6万579円だった。最も低かったのは3695円だった。

5千円以上1万円未満が40カ所で最も多く、1万～1万5千円が31カ所、1万5千円から2万円が28カ所、2万～2万5千円が27カ所と続いた。

県内自治体が16年度に障害者就労支援事業所から商品やサービスなどを優先的に調達した金額は8377万円で、前年度より1011万円(14%)増え、工賃アップに貢献した。

5千円以上1万円未満が40カ所で最も多

階段の介護を楽に マルトミレンタ「らく段」 わかやま新報 2017年08月13日

建設機械などのレンタル・リース・販売だけでなく、救急搬送、福祉用具の販売、福祉車両の販売、リース、レンタルなども行っている(株)マルトミレンタ(富田博文代表、和歌山市井戸)。

この夏、新商品として可搬型階段昇降機「らく段」を共同開発し、取り扱いをスタートしました。らく段は、階段介護での介護者の負担を大幅に軽減し、エレベーターやリフトを取り付ける費用に比べて格段に安価。

また、可搬型なのでいろいろな場所で使用できます。さらに、軽量コンパクトな設計で、本体はわずか29kgです。利用者からは、折り畳み式なので福祉車両への搭載もでき、1台あれば家でも外でも気軽に利用できると好評です。本体は青を基調としたシンプルな作りで、通常は車椅子として利用できます。使い方も簡単で、キャタピラが回転し階段を昇降、基本は2人一組で使用できます。

階段介護が楽に行えます

バッテリーはリチウムイオンを使用しているので、家庭用のコンセントでも充電が可能です。

おんぶ帯での階段介護で腰を痛めたスタッフがいる、ソフト担架では数人が必要となるので人手が足りなく利便性も悪いなど、お困りの事業者はぜひご一考を。詳しい資料もあるので気軽に問い合わせしてみたいかがでしょう。問い合わせはマルトミレンタ(Tel073・479・1321)。

